**吉島 栄蔵 （よしじま・えいぞう）**

**１、プロフィール**

歌人。「アララギ」に入会。「東北文学」「玄人」に参加。「地上」に入会以降は、「地上」「美籠」「国原」に歌を発表。北奥羽短歌協会長として短歌振興に寄与。

＜生没＞

1913（大正２）年10月30日～1996（平成８）年４月26日

＜代表作＞

歌集『稲の花』

随想集『釣鐘草』

＜青森との関わり＞

八戸市出身。教職にあった。歌誌「国原」同人で県歌人懇話会副会長。北奥羽短歌協会長等の要職にあった。

**２、作家解説**

大正２年10月30日、八戸市に生まれる。旧制八戸中学校卒業後、小学校本科正教員（検定）、小中野小学校代用教員、湊小学校訓導を務める。昭和14年８月応召。復員後、八戸市農業共済組合長、八戸市連合ＰＴＡ会長等を歴任し、八戸市文化賞、藍寿褒賞等を受賞。歌誌「国原」同人で、八戸市文化協会監事、青森県歌人懇話会副会長、北奥羽短歌協会長等の要職にあった。

短歌を始めたのは中学４年であった。木村靄村との出会いが機縁となり、「アララギ」に入会。その後稲垣浩を知り、稲垣を通して窪田空穂の謦咳に接することができた。昭和８年～11年頃には、沙和宋一の「東北文学」・木村靄村や宇山博明等の「玄人」に参加したり、芸林の奈良兵亮等と「陸奥」を発行したりした。対馬完治主宰の「地上」に入会した昭和10年以降は「地上」「美籠」「国原」に歌を発表。八戸文化協会・デーリー東北新聞社の共催により北奥羽短歌協会が毎年行なっている「北奥羽短歌大会」の開催では幹事役をつとめた。平成８年４月26日、不慮の事故で永眠。享年82。

「歌は誰にでも解かるように、誠実に詠い上げること」が指標で、歌集『稲の花』（昭和51年10月30日・ 国原社）と随想集『釣鐘草』（平成５年３月25日）を上梓している。

**３、資料紹介**

〇『稲の花』

図書

1976（昭和51）年10月30日

195㎜×135㎜

昭和７年から昭和48年までの歌を取捨して一冊としたものである。昭和７年から昭和14年の「牡丹の花」には短歌227首と長歌２首、昭和21年から昭和48年の「稲の花」には短歌370首と長歌２首を収める。「序」を稲垣浩（「国原」主宰）が執筆。